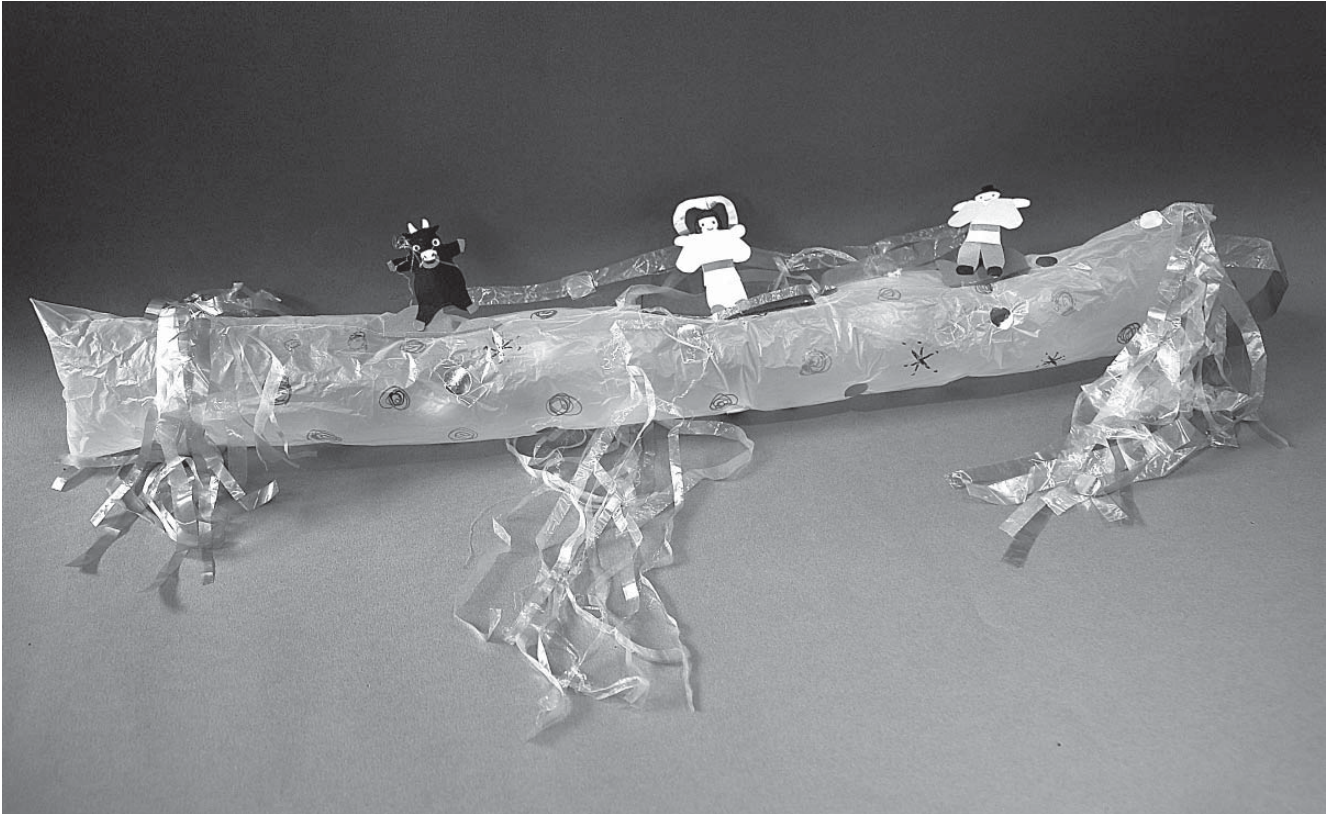


## 作って飛ばす “七夕”の造形

自分で作ったもので遊ぶところまでを造形活動と捉えることもできます。遠くへ飛ばしたり、的をねらったり、遊びながら構造の理解を深められるプログラムです。



### 「七夕シューティングスター」

雨の日、店舗などに入る時に濡れた傘を入れる傘用のビニール袋があります。通常のビニール袋と違い、薄く、傘に合わせ細長い形状をしているのが特徴です。空気を入れると膨らみ、張りが生まれます。このような細長い形のものを手にとると、子どもたちはチャンバラごっこや槍投げのように投げて遊びたくなるものです。

「七夕シューティングスター」は空気を入れた傘袋を七夕の流れ星に見立て、飛ばして遊ぶプログラムです。作って遊ぶところまで全てを造形活動と捉え、「どうしたら良く飛ぶのか」「飛んでいる時にきれいに見える装飾はどんなものか」など実際に遊ぶ時の構造や様子をイメージして制作を進めます。

流れ星の形を作る上で細長いビニール袋が構造の中心と

ビニール袋に空気を入れて遊ぶことは、一見単純な行為に思えますが、空気を袋という一定の空間に閉じ込めることで、普段はなかなか気づくことができない空気の実感するきっかけになります。袋に入った空気の大きさを目で見て感じ、手で押ししたり握ったりすることで張りや抵抗感を感じ、実際に持つことで、空気の軽さも実感できます。

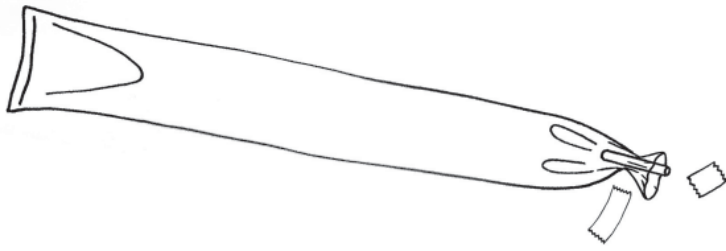
日常的には当たり前すぎて意識することのない空気

になります。まわりに色紙やスズランテープで装飾することで、透明で見えづらい空気の膜面を引き立たせます。飛ばした時に、軽やかな印象も生み出します。織姫、彦星、星やカササギなど、七夕のさまざまな要素を手掛かりに飾りつけることができます。また、自分の願い事を乗せて飛ばすのもおもしろいでしょう。

遠くに飛ばすためには、重りが必要になります。重りには、傘袋の径にちょうど合う、セロハンテープの芯を使います。どちらも日常的によく使われるものですが、うまく組み合わせることで造形素材として生かすことができます。七夕だけに限らず、細長い形状を生かして、「鯉のぼり」や干支の「辰」や「巳」などへ応用していくことも可能です。

ですが、少し視点を変えてみると空気も立派な造形素材になります。袋に詰めるだけでなく、風によって揺れるオブジェや風を起こす装置、空気を振るわせて伝わる音をテーマにしたものなど、普段なかなか目を向けられないものだからこそ新しいプログラムとして広がりを見せることもあります。目に見えるもの、手で触れるものだけが造形素材とは限らないのです。

□「七夕シューティングスター」の作り方□



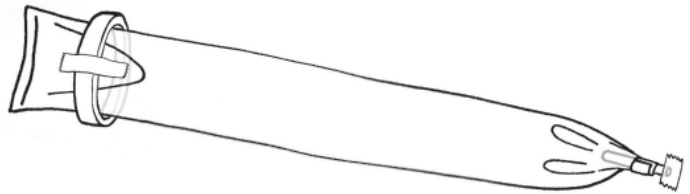
- ① 傘袋の口に、セロハンテープでストローを接着します。
- ② ストローから空気を入れて、先をテープでふさぎます。

□「七夕シューティングスター」  
作りで使う道具□

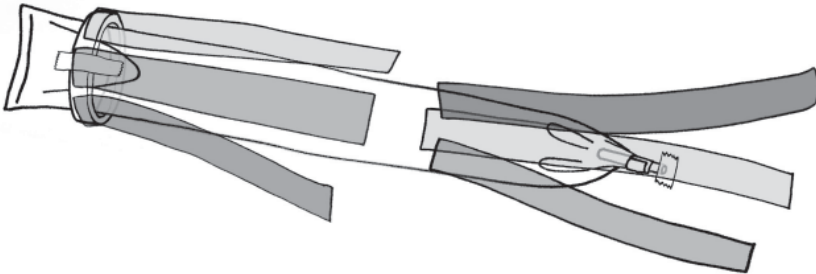
のり／はさみ／油性ペン／セロハンテープ

□「七夕シューティングスター」の材料□

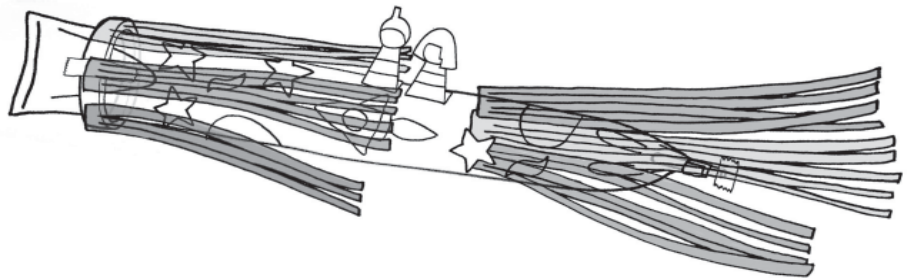
- ① 傘用ビニール袋
- ② スズランテープ (50cm×4本、15cm×4本)
- ③ セロハンテープの芯
- ④ ストロー (4.5cm)
- ⑤ 飾り用色紙など



- ③ 傘袋の片方の端に紙管を通し、セロハンテープで固定します。



- ④ 傘袋の前後にスズランテープを接着し、好みの太さに裂いて飾りつけます。



- ⑤ 色紙や油性ペンなどで飾りつけます。



- ⑥ 障害物を天の川に見立て、飛ばして遊びます。

イラスト：横須賀ヨシユキ